

いっぺいといっぱく Vol.58



市長は長久手をどんなまちにしたいか、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。また、市HP【によぜがもん】もぜひご覧ください。
[市HPのトップページから「によぜがもん」をクリック。]



モノよりコト

最近、昔の記録を整理して、私たちの生活が時代とともにどのように変わっていったのか調べてみました。今は電話といえばスマートフォンをイメージする方が多いかと思いますが、私が最初に使った電話は固定電話でもなく、有線放送電話でした。私の記録では、昭和36年に農協が長久手で有線放送電話を始めました。電話がかかってくると近所一帯の電話機に呼出しがかり、会話の内容が近所に筒抜けという、今では考えられないような仕組みですが、とても便利なので皆あまり気にしていませんでした。とてもおらかな時代でした。

その後、昭和38年には長久手で初めて道路が舗装されました。今では当たり前のようにアスファルトで覆われている道路ですが、それまでは雨が降ると水たまりのできるデコボコ道ばかりでした。村営水道ができたのは昭和39年で、この年は、東京オリンピックが開催された年です。新幹線ができたり高速道路ができたといういろいろな工事がされて、いろいろなモノが作られ、日本全体が変わっていきました。大量に生産し、大量に消費する時代となり、モノがあふれる時代になりました。

今は、モノについては一通り充足し、消費の中心がモノよりコト、体験を大事にする時代になりつつあると感じています。人々の関心が所有欲を満たすことから、経験や体験といった、心の充足を求めることに変わってきているようです。人口がどんどん増え続けた時代は、モノもどんどん増え続けた時代でした。人口が減少する時代へと変わったこともモノよりコトになってきた理由のひとつでしょう。

このように、社会が変わっていくように、行政も合わせて変わっていく必要があると思います。社会の価値観が変わったら、行政も価値観を変えて、時代にあったやり方へと変えていくのです。モノ重視よりコト重視へ変わるというのは、買物よりもおしゃべりを楽しむようなことで、行政だと、ハードウェア重視よりソフトウェア重視への変化とも言えるかと思います。予算や制度で、効率的にルールどおりに解決するやり方ばかりではなく、これからは一層、人に寄り添うきめ細かな対応や、時には法律や制度を超えた、おおらかさが求められることとなるでしょう。

価値観を変えるということは、なかなか難しいものです。価値観というもの、人生経験などの長い時間が育むものですから、それを変えるのにも、普通は長い時間がかかるものです。だから、行政の価値観を変えるとと言っても、すぐに簡単に変わるものではありません。ところが、先に物事のやり方を変えてみると、後から価値観が変わるということもあります。これまでのやり方を、少しだけ変えてみる。これくらいなら簡単なことです。これは仕事に限りません。まずは自分の生活で、いつも同じ事をしている物事のやり方を少しだけ変えてみてはどうでしょう。これまでと違った視点で物事を見ることができるようになるとと思います。



ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

長久手市地域見守り安心ほっとライン

0561-63-5556

24時間
365日受付



表紙の写真もう一枚

5月19日、市内4会場で「2018児童館まつり」が開催されました。会場の1つ青少年児童センターでは、段ボールカーリングやお化け屋敷など「こどもスタッフ」がこの日のために準備したレクリエーションで多くの子どもたちが楽しんでいました。

